

3 自然ネットの取組

自然ネットは、さまざまな活動を主催、もしくは開催協力を行った。

学習・交流

1 自然講演会 静岡大学教育学部准教授 加藤 英明氏

■ 実 施：令和4年8月20日(土) 北九州芸術劇場 大ホール
■ 参加者数：291人



団体活動紹介

■ 実 施：令和4年8月20日(土) 北九州芸術劇場 ホワイエ



2 エコライフステージ2022

■ 実 施：令和4年11月19日(土)、20日(日) 勝山公園大芝生広場
■ ブース来店者数：610人



実践活動

3 自然体感講座などへの協力

カブトガニ産卵観察ツアー

実施：令和4年7月17日(日) 曾根干潟
参加者数：28人



自然観察会(魚部との図鑑づくり)

実施：令和4年8月6日(土) 響灘ビオトープ
参加者数：20人



平尾台ツアー「平尾台の秋を感じよう」

実施：令和4年10月29日(土) 平尾台
参加者数：28人

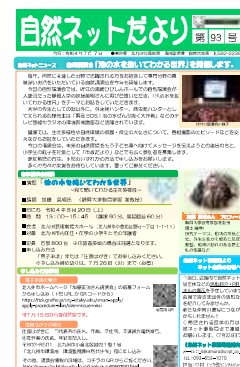


情報の発信

4 情報の発信

■情報誌「自然ネットだより」の発行
自然環境や会員の活動情報などを
自然ネット会員へ周知する情報誌を発行(年4回)

■「メールマガジン」の発信
自然環境活動情報を自然ネット会員に対し
電子メールで配信(月1回程度)



自然ネット参加団体等の取組 (50音順)

戦略基本目標 1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

NPO法人環境ネットワーク 小倉北区

実施内容

活動名称 カブトガニ産卵観察ツアーの運営

取組内容

目的・趣旨 市民に対して、生物多様性の重要性と啓発を目的とし、日本有数のカブトガニの産卵地である曽根干潟において、カブトガニの産卵観察および専門家による解説。また曽根干潟の野鳥を観察し北九州市の自然環境を体感して頂くツアーを開催。

活動内容 「日本カブトガニを守る会福岡支部」メンバーの協力を得て、現地で、実際の産卵観察とカブトガニの生態の説明を2班に分けて交互に体験をして頂きました。その後砂浜まで移動をし、野鳥観察と水辺の生き物の観察をしました。最後に砂浜周辺のゴミも拾って持ち帰りました。

成果 身近な場所にカブトガニが生息していることに大きな驚きと共感を得られたようで、子供達にも記憶に残る実体験が出来たと思います。また、環境保全の大切さを感じて頂けたと理解しています。



現地に向かう際に「カブトガニ自慢館」に立ち寄りました。水槽のカブトガニに触れる体験しました。



大量のゴミを回収

観察終了後、皆さんで海岸清掃をしました。



2班に分けて、テント内でカブトガニの生態の説明を受けます。

【守る会からのマスコットプレゼント】



1班は先に産卵観察へ向かいます。

最後に「カブトガニ」マスコットをプレゼントして頂きました。

今後の展開

専門家による説明は「知識の泉」です。海辺のツアーをはじめ山の散策、自然を体験することを通して、野生生物の減少や広範囲の環境に及ぼす負担を知ってもらい、市民各自が無理のない活動に取り組まれることを願っています。

北九州グリーンヘルパーの会 門司区

実施内容

活動名称 里山保全事業(小倉南区合馬地区:竹林整備、植樹他)
農事体験事業(小倉南区徳吉地区:休耕地の有効活用)

取組内容

目的・趣旨 合馬地区の約300haの竹林の内、100haは管理されて筍が生産されている。残る200haは放置状態で荒廃が進んでいる。本会は「未来に美しい豊かな自然を残す育てる」を目的として、放置竹林の整備と維持管理及び植生回復に努める。又 農事体験を通じて里地環境の保全に努める。

活動内容 里山・里地保全事業:
竹林整備(竹林間伐・筍掘り)
竹林全伐地の植生回復
休耕地の花畑造成・野菜栽培
そのほかに各種樹会参加

成果 2019.3月より新しい放置竹林の竹林整備を始めた。3年間の活動で予定地区の半分ほどの整備ができ、見違える様な竹林に蘇っている。



ロープを掛けて伐竹



休耕地をコスモス畑に

課題

会員の高齢化と会員の減少が進んでいる。会の趣旨を理解し、自然環境保全に興味がある方の入会を、年齢性別を問わず、随時募集中です。里山里地の自然環境を整え、将来に豊かな自然を残すことを夢見るあなた、ぜひご参加下さい。活動で汗を流し、自然もあなたも健康体になり、自然の恵みにあずかる喜びが待っています。

今後の展開

活動の継続を図り、整備の範囲を広げ、若い人にも合馬の地(自然)を親しんでもらいたい。

北九州植物友の会 小倉北区

実施内容

活動名称 自然観察

取組内容

目的・趣旨 植物を通して自然を正しく理解し、快適な自然環境の保全、地域文化の向上に寄与することを目的とする。この目的を達成するために例会、同定会、研究会等の行事を行う。

活動内容 コロナ渦のなか、計画された月例会の観察場所を一部変更はあったが、予定通り10回の例会を開催した。会員数32名。例会参加者136名。友の会誌「北九州植物友の会会報」30頁A3版 オールカラー一年1回発行。

成果 野外観察会9回うち県外3回、室内学習会・同定会1回の活動報告を北九州植物友の会会報第45号に掲載した。



課題

さらなる活動の活性化のためには、会員の平均年齢上昇に歯止めをかけるために、若い世代の会員を増やしていく必要がある。

今後の展開

長年の間、開催してきた月1回の野外観察会・室内研究会・同定会ならびに年1回の友の会会報の発行を継続していくことを第一義として活動していきたい。

NPO法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会 若松区

実施内容

活動名称 平成竹取伝説

取組内容

目的・趣旨

合馬の筍がブランド化する北九州市であるが、放置により荒廃する竹林・里山も少なくない。そこで、北九州学術研究都市およびその周辺の竹林・里山を市民・NPO・企業が協働し、生物多様性や景観の保全を図るものである。

活動内容

2004年1月から毎月1回(原則第二土曜日9:30~12:00)、市民・NPO・企業が協働し、竹林・里山の保全活動を実施

成果

北九州市学術研究都市周辺における竹林の間伐作業を行い、景観保全及び生態系保全に努めた。水路沿いに浸食している竹の間伐作業及び草刈りを行うことによって虫が生息できる環境を整備できたことが成果としてあげられる。また活動場所や広報の方法などを工夫し、活動継続に向けて取組を行った。

課題

今まで主に人の目の届かない森林竹林で活動してきたが、地域からも良く目につく里山で活動することの重要性を感じ、これからは地域に根ざした活動や人材育成にも努める。



今後の展開

活動フィールドである北九州学術研究都市の周辺にはいくつか里山があるが、周辺住民にも目につく市民公園内の里山を保全モデルとして長期に渡って活動を展開していく。目的として、地域住民の活動参加促進や将来の里山保全のモデルの構築を目指す。

NPO法人 里山を考える会 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州里山トラスト会議

取組内容

目的・趣旨

里山の自然でのさまざまな体験や保全活動等を通じて、人間と自然の共生について理解を深めていく。

活動内容

里山トラスト会議では、里山の自然維持・管理活動を中心とした活動を年20回程度行っている。具体的な活動としては、侵入竹の除去や下草刈り、遊歩道の整備、自然観察会などである。また、里山トラスト会議最大のイベントとして毎年11月に「里山祭」を開催している。森の中で料理、クラフト体験、里山さんぽ、音楽演奏会を実施するなど、普段あまり自然に接する機会の少ない方にも興味を持ってもらえるような活動を行っている。

成果

里山トラスト会議では、継続的に活動することができている。今季の活動では、新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、小規模ながら年間15回程度の活動を実施することができた。また少しずつではあるが、ユース世代や大学生並びにNPOとの協働ができている。



課題

里山トラスト会議での課題は、コロナ禍の影響もあり活動メンバーの偏りは感じている。若者世代は車の所有や運転免許を持たない人が増えてきた感覚を持つ。主に山での活動が多いため公共交通機関が少なく不便な場所が多い特徴があるため、それらを支え合うため参加者同士の関係づくりも継続的に進めたい。

今後の展開

これまでの活動実績をベースに今後も里山での取組を継続していく。今後も活動を通じて「自然との共生」について理解を深め行動できるきっかけづくりを進めていきたい。

日本熊森協会 福岡県支部 八幡西区

実施内容

活動名称 自然林観察ツアー 九大の森へいこう

取組内容

目的・趣旨

保水力の高い豊かな森を知る

活動内容

実際の森の現状を観察

成果

広葉樹の森は鳥はさえずり、空気も清々しく山歩き効用を実感できた。

課題

森林環境譲与税が放置人工林の再生へ活用されることを願う。

今後の展開

山の現状を多くの人々に知って戴くための勉強会「クマカフェ」を開催し放置されたままの杉・ヒノキの山を間伐し、光を取り込むことにより広葉樹の森へ再生する活動につなげる。

